

スポーツ健康学研究科スポーツ健康学専攻  
2026年度秋季入試（修士課程）\_専門科目  
解答例，出題意図

問1. 次の用語のうちから3つを選び、それぞれ120文字程度で説明しなさい。

1. コホート研究

【解答例】曝露の有無や程度で集団を分け、一定期間追跡して傷害・疾病などのアウトカム発生を比較する観察研究。発生率や相対危険を算出し、曝露から転帰までの時間順序が明確。希少曝露に適するが、交絡や追跡脱落、費用と期間に注意する必要がある。

【出題意図】スポーツ・健康分野の因果推論の基礎である観察研究デザインを理解し、指標と時間順序、限界を要点整理できるかを評価する。

2. トレーニングの特異性・過負荷・可逆性

【解答例】特異性は目的・種目に合う刺激で特異的に適応、過負荷は通常より高い負荷で能力が向上、可逆性は中断で低下する性質。運動処方では頻度・強度・時間・休息を適切に組み合わせ、漸増と個別性を踏まえたプログラムとする。

【出題意図】競技・健康づくり双方で必須の三原理を、処方要素と結び付けて簡潔に説明できるかを評価する。

3. スポーツ施設のネーミングライツ

【解答例】施設の名称に企業名やブランド名を冠する権利。その権利を売買することを命名権ビジネスという。施設側は命名権料を運営資金に充て、企業は広告効果や地域貢献の機会を得ることができる。一方で、経済状況により協賛企業が入れ替わり、名称が定着しにくい課題もある。

【出題意図】ネーミングライツを単なる権利ビジネスとしてではなく、スポーツ施設を公共財と経済活動の接点として捉え、スポーツと地域社会・企業との関係を多面的に理解できるかを評価する。

4. スポーツ組織のステークホルダー

【解答例】利害関係者ともいわれ、その組織が関係する者や組織を指す。組織の活動や成果によって利害が左右される存在である。ファン、メディア、スポンサー企業、地域住民、自治体、リーグ、またリーグに所属する他のクラブなどが含まれ、一般企業に比べて多岐にわたる。

【出題意図】スポーツビジネスの基本的な用語理解と、スポーツ組織を多様な関係者の共同によって成り立つ仕組みとして理解できているかを評価する。

## 5. オープンスキルとクローズドスキル

【解答例】オープンスキルとは、サッカー等の球技や柔道等の対人競技のように、相手や環境に対応して変化するスキルのことで、クローズドスキルとは、陸上競技やプールでの水泳競技のように、相手や環境に直接的な影響を受けないスキルのことである。

【出題意図】スポーツコーチングコースの専門科目である「保健体育概論」において解説する「学習指導要領」の運動領域区分の仕方、および高等学校の保健体育科の教科書『最新高等保健体育』にも掲載されている語句であり、知っておくことは必要である。

## 6. 嘉納治五郎

【解答例】嘉納治五郎は、1882年に講道館柔道を興し、1909年からアジア初の国際オリンピック委員会（IOC）委員に就いた教育者である。「国民体育」を奨励し、日本のオリンピック参加のために「大日本体育協会」を設立する等（1911年）、日本の体育・スポーツを築いた人物である。

【出題意図】スポーツ健康学部の必修である専門基礎科目「スポーツ哲学」「スポーツ史」等において必ず取り上げられる人物であり、知っておく必要がある。

**問2.** 次の設題について、図表の矢印に留意して各問500字程度で論述しなさい。

（1）健康日本21（第三次）では健康寿命の延伸と健康格差の縮小が最終的な基本的な方向に位置付けられているが、この方向を達成するために下図の基本的な方向がそれぞれどのように機能し、役割を果たしているかを論述せよ。

【解答例】健康日本21（第三次）の最終的な目標は「健康寿命の延伸」と「健康格差の縮小」であり、これを実現するために基本的な方向が設定されている。まず、個人の行動改善は、運動、栄養、休養、禁煙、飲酒のコントロール、歯科保健など生活習慣に関する予防行動を促進し、発症リスクを軽減するための土台となる。社会環境の質の向上は、健康に配慮する職場環境や地域社会の整備、健康情報へのアクセス改善（DX化の促進）などを通じて、個人の努力だけでは克服できない構造的要因を改善させる。ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりは、各世代に応じた健康への支援を重視し、世代間にわたり継続的かつ公平な健康増進を図るものである。これらの方向性は誰一人取り残さない（Inclusion）という理念のもとで統合され、社会的弱者や健康格差の影響を受けやすい人々に対して重点的に施策を展開することでより実効性をもつ取組（Implementation）をおこなうことが可能であり真に持続可能な健康社会を実

現すると考えられる。したがって、健康日本 21（第三次）の基本的な方向はお互いに作用し、最終的な目標の達成に不可欠なものといえる。

（2）健康日本 21（第三次）におけるビジョンのキーワードとして誰一人取り残さない健康づくり（Inclusion）とより実効性をもつ取組（Implementation）があげられているが、これらのキーワードをもとに下図を参照にして今後の社会構造やライフステージの多様化を踏まえた日本の健康対策の方向性について論述せよ。

【解答例】健康日本 21（第三次）は、従来の目標達成度の課題を踏まえ、誰一人取り残さない健康づくり（Inclusion）とより実効性をもつ取組（Implementation）という 2 つのキーワードをもとに進めていく方向となっている。Inclusion は、社会的弱者、高齢者、障害者、経済的困難層、外国人など多様な背景を持つ人々を考慮して健康づくりの恩恵から誰も排除しないことである。このことは健康格差を是正して個人の努力だけに依存しない仕組みを保障するするうえで不可欠なことであると考えられる。Implementation はこれまで十分に機能していなかった政策を改善して、科学的根拠に基づく評価、数値目標の設定、それらのデータの活用などを通じて実効性の高い施策を進めることである。特にライフコースの多様化に伴う各世代間格差が生じたとしても各段階に応じた予防策や支援体制を構築することが重要であると考えられる。これらを組み込むことは健康寿命の延伸だけでなく、世代間格差や地域格差の縮小にも有効な政策と考えられる。したがって、Inclusion と Implementation は相互に補完しあい持続可能かつ公平な健康政策を推進するうえで重要な役割を果たしていると考えられる。

【出題意図】「スポーツ健康学」とは「健康であること」を基本かつ目標としたうえで「スポーツ」の側面から人間社会の充実と発展をなすための学問です。そのため「スポーツ健康学」を追及するために、その根幹となる「健康」について出題をおこないました。

以上